

埼玉大学経済学部同窓会

経和会会報

第9号

2006年5月20日発行

発行 埼玉大学経済学部同窓会
経和会会長 内藤 勝久
編集 常務理事 栗原 毅
さいたま市桜区下大久保255番地
TEL 048 858 3281

経和会ホームページをご利用ください

URL <http://www.keiwakai.net>

新しい風

経和会会長 内藤 勝久



会員の皆様にはますますご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。平素は経和会の活動に深いご理解とご支援をいただき心より厚く御礼申し上げます。

昨年度は学生の就職支援、異業種異文化との交流、経済学部支援、同窓会連合会支援を効率的に行なうための基盤づくりに、経済学部との連携のもと、各委員会を中心に精力的に取り組み、着実に年輪を刻むことができました。

今年度はさらに活動を活発にして、根を張り枝を伸ばし、会員の皆様に喜ばれ頼りにされる経和会づくりに邁進したいと思っておりますので、引き続きご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

一、学生の就職支援

(1) ホームページによる最新情報の提供、学部独自の就職支援セミナーの開催、同窓会総会の懇親会での個別相談の実施、インターンシップ報告会への参加などを通じ、学生が自信をもって就職活動できる環境を整えました。

(2) 昨年度から始まった「テーマ別教育プログラム 会社と出会う」(後述)や就職相談でも経和会の役員が中心的役割を果たしています。

二、異業種異文化との交流

(1) 大学院卒業生が組織として同窓会に参加することとなり、ホーム

ページの共同使用が始まりました。経和会の若手会員の交流会も活発になり、同窓会に新しい風が吹き始めました。

三、経済学部支援

(1) 昨年二月に開催された、チュラーロンコーン王立大学(タイ)、シンガポール国立大学(シンガポール)、埼玉大学(日本)の経済学部の持ち回り国際会議で、埼玉大学がホスト役を努め、経和会から学生、院生を含め六五名が参加し、会議やパーティーの盛り上げに貢献しました。

(2) 同窓会から提案した学生の論文表彰が本決まりとなり、財政面で支援することになりました。

(3) セミナール連合会が復活し、大学祭でタバコの吸殻拾いゼミ対抗戦を企画、要請に基づき賞金を贈呈しました。

四、同窓会連合会支援

昨年度から始まった教養教育「テーマ別教育プログラム 会社と出会う」の後期課程「会社と出会う」で、経和会理事の今野特任教授が中心となって、現代の会社の持つさまざまな特徴や機能を掘り下げ、多くの学生から高い評価を得ました。新年度は各学部の人材バンクを活用して、より幅広い講師陣を整え、授業の充実を図ることになっています。

五、その他

中長期的な財政の健全な運営を図るため、矢野野副会長を委員長とする財務委員会が発足しました。以上のほかにもいろいろ企画がありますが、詳細はホームページでお知らせします。

今年も新しい風をどんどん吹き込んでくださるようお願い申し上げます。

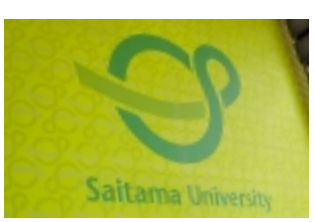
平成18年度・経和会総会のご案内

- 一 日時
 - 平成18年7月8日(土)
 - 総会・講演会 13時(受付12時30分)
 - 懇親会 15時30分~17時30分
- 二 場所
 - 埼玉大学下大久保キャンパス
 - さいたま市桜区下大久保255
- 三 講演
 - 株式会社 アイネット
 - 「アイネットの歩み」
 - 東証一部上場を果して
- 四 懇親会会費
 - 5,000円
 - (経済学部学生・院生は無料)
- 五 交通
 - JR京浜東北線 北浦和駅
 - またはJR埼京線 「南与野駅」下車
 - (いずれもバス埼玉大学行き)
- 六 出欠連絡
 - 6月19日(月)まで
 - (同封ハガキにて)

平成17年度 経和会事業報告 (H17/4~H18/3)

平成17年5月10日	経和会 会報第8号発行
平成17年6月8日	経和会常任理事会・理事会(会長外23名出席)
平成17年6月14日	経済学部・経和会交流会(会長外20名出席)
平成17年7月9日	経和会平成17年度総会及び懇親会(会長外110名出席)
平成17年9月17日	経和会常任理事会(会長外8名出席)
平成17年11月11日	経済学部 インターンシップ報告会(中村副会長、今野理事外1名出席)
平成17年11月15日	広報委員会(中村副会長外5名出席)
平成17年12月3日	協定校(3大学)による合同国際会議(会長外6名出席)
平成17年12月20日	経和会常任理事会・理事会(会長外15名出席)
平成17年12月20日	経済学部・経和会交流会(会長外24名出席)
平成17年12月20日	若手交流会(会長、中村副会長外6名出席)
平成18年3月7日	若手交流会(中村副会長外4名出席)
平成18年3月18日	埼玉大学同窓会連合会常務理事会(田坂常務理事出席)
平成18年3月23日	大学院修了式・祝賀会(会長出席)
平成18年3月24日	埼玉大学卒業式・経済学部卒業祝賀会(会長出席)

大学が大きく変わりました



ロゴマーク

埼玉大学では平成十八年四月より大学のロゴマークを新たに作り発表しました。埼玉のSと玉(円)をデザインしました。今後大学発の広報誌などに広く使われ、埼玉大学のイメージアップに繋がるものと期待されています。



モニュメント

また正門ロータリー内に埼玉大学の「知」の象徴としてモニユメントが設置されました。



コンビニ「ローソン」

さらに、学生会館がリニューアルされ、コンビニの「ローソン」が開店しました。学生や地域の方が寛げる約一四〇席のカフェテラスやインターネットに接続できるテーブルやパソコン・データなどを印刷できるプリンターなどが揃い、大学内のコンビニとしては最新の機能を有しており、連日学生や地域の方で賑わっています。その他、全学教育棟なども整備され、大学が大変きれいになりました。皆さん七月の総会に参加して新しい大学の雰囲気を感じてみてください。

優秀学生表彰制度の創設と 第一回表彰について

企画委員長 寿永 一郎

企業再生も含めて、市場時代における企業防衛の基本が本業回帰にあると言われている。本業は社会的存在価値そのものであり、世の中に必要なものは存在し続けるからだ。組織維持の為に社会的存在価値追及の機能が組織の中にビルトインされていることが絶対に必要で、大学も学生も、同窓会も例外ではない。改めて言うまでもなく、大学は研究・教育に、学生は勉学に、同窓会は大学と学生、OBの支援に社会的存在価値がある。優秀論文表彰制度は三者接点の一つとして企画委員会にて提案され二年間の検討を経て創設された。具体的には、経済学部推薦の優秀卒業論文の中から学部代表と経和会代表(会長、統括副会長)の協議により表彰対象を選定、卒業式で経和会会長が表彰状と副賞(数万円相当)を手渡しして学生の努力を労うというものである。今年度は既に本稿執筆時点で二作品の推薦があり卒業式での第一回表彰に向けて手続きが進められている。

ダーウィンは、「大きな変化の中で生き残るためには、身体の大ささや足の速さではなく、変化への対応力が重要」と喝破している。時代の変化を読み取り、社会の発展に貢献するテーマを選定し、研究を重ねて論文に纏め社会にその価値を問う努力を、次代を担う学生諸君に期待したい。この地道な努力が新たな埼玉大学を創り、学生諸君の人生を創る原動力になることを信じて止まないからである。

平成18年3月表彰

- 最優秀論文
(経済学会長賞) 八木澤佑一
- 優秀論文
(経和会長賞) 平林 正輝
宮下 祐
宮島 麻衣

表彰制度は経和会にとっても存在価値を示す重要事項である。大学・

学生に対する一層の支援充実のために会員各位のご理解とご支援を頂きたく、心からお願ひ申し上げます。

社会人教育がスタート

特任教授 今野 耕作

今、埼玉大学が大きく変わろうとしています。その一つが、産学協同による産業界づくりです。この仕事は内藤勝久、今野耕作の二人が担当していますので、新しい動きについて報告させていただきます。

昨年度は就職支援のほかに、新しく導入されたテーマ教育の「会社に出会う」という授業を始めました。全学部の一年生向けの講座で、産業界になるための基礎実践講座です。受講者は一五一名、一五回を通しての授業の平均出席率は、九〇%を超えるという予想以上の人気の授業になりました。

授業内容は、MBAマネジメントのながれを初心者向きにアレンジし、ジェネラルマネージャーとして働く楽しさに気づいてもらう事狙ったものです。

会社の実像、組織運営のルール、会社が目指しているもの、事業活動の楽しさ、二一世紀の会社の役割、求められる人材、ビジネスマナーなどを、ワークショップを取り入れ、身につけてもらう講座です。

今回は現役で活躍されているOBの方々にゲストスピーカーになってもらい、生きた話もしてもらいました。今年はこの授業を二クラスに増やし、内容もレベルアップしました。一クラスの定員は二〇〇名。大学では初めての新しい実験ですが、OBの方々と二人三脚で二一世紀型の大学を目指します。

新しい時代は、学生にとって夢と方向性がなければ見捨てられてしまいます。



今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

経済学部就職支援セミナー開催

常務理事 田坂 敏幸

昨年度、経済学部と共同して三年生向けに就職支援セミナーを六回開催した。

第一回の七月当初は学生が就活モードになっておらず参加数が少なかったが、担当教官の本城・近田・江口三人の先生のゼミ教官・学生への働きかけにより徐々に参加者は増えていった。

第二回は「良い企業と悪い企業の見分け方とはノミスマッチを防ぐには」は学生の立場に立った企業の見分け方について、第四回伊藤正昭弁護士による「面接のヒントになる社会人マナーとは」は先生の機が飛ぶ一幕もあり、先輩の熱き思いが学生に伝わったことである。

企業の採用担当者による「面接の受け方とタブー/マル秘・情報」はさすがに興味深く皆さん真剣にメモを取っていた。

人事担当者の感想を聴くと、皆さん大人しいですね。積極性が見られないとの率直な感想が帰ってきた。

埼玉大生の特徴なのであろう。しかし、埼玉大は是非採用したい大学の一つなんですよとの心強い返事も返ってきた。

今野耕作理事(特任教授)による、四年生のパネルディスカッションでは就活の早期行動の必要性や五〇社程度の取り組みをしている実態談などが飛び出し、一年先輩の興味深い話に皆さん耳を傾けていた。

また、女子学生を対象にしたメイクアップのセミナーも開かれた。最終回は「代表的企業研究」と銘うって、OBの皆さん五名の参加を得てもらい、各企業での働きぶりなどを本音で語っていただいた。

本セミナーでお手伝いいただいたOBの皆さんにここに改めて御礼申し上げます次第である。

会報が発行される頃には学生の皆さんが目指す企業から内定を貰っていることを期待してやまない。

卒業生の主な就職先一覧(過去3ヶ年)

【金融保険証券関係】 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 りそな銀行 武蔵野銀行 千葉銀行 栃木銀行 群馬銀行 住友信託銀行 みずほホールディングス 商工組合中央金庫 国民生活金融公庫 中小企業金融公庫 農林中央金庫 埼玉県信用組合 飯能信用金庫 川口信用金庫 巢鴨信用金庫 三井住友海上火災 東京海上日動火災 損保ジャパン 日本興亜損保 日本生命 第一生命	野村證券 大和証券 日興コーディアル証券 UFJ つばさ証券 三菱証券 【建設・製造業】 清水建設 明治乳業 日本デルモンテ ライオン 日本酸素 京セラ 岡村製作所 YKK AP フジノン 小野薬品工業 科研製薬 住友電装 スズキ 日野自動車 関東自動車工業 ヤマハ発動機 日産車体 ブリジストンサイクル	タカラスタンダード 横浜ゴム スタンレー電気 サンケン電気 カシオ計算機 芝浦電子 東洋インキ製造 日立電線 クボタ 【通信・運輸・放送】 KDDI NTT データソフィア ソフトバンク BB 佐川物流サービス 日本航空 ヤマト運輸 JR 東日本 NHK 【卸・小売・販売】 イオン イトーヨーカドー ローソン 日本マクドナルド 青山商事	埼玉ゼロックス 大塚商会 長崎屋 【不動産・不動産販売】 野村不動産 日神不動産 住友不動産販売 積水ハウス レオパレス 大東建託 東京建物不動産販売 【カード・リース】 DCカード JCB ORIX 三井住友銀リース 【サービス業】 近畿日本ツーリスト HIS ニチイ学館 総合警備保障 ベネッセ・コーポレーション 栄光ゼミナール	【公務員関係】 内閣府 財務省関東財務局 厚労省関東信越厚生局 法務省矯正局 埼玉県庁 埼玉県警 東京都庁 警視庁 その他県庁 市役所・区役所 日本郵政公社 国際協力事業団 社会保険庁 東京税関 東京国税局 【その他】 監査法人・会計事務所 行政書士事務所 野村総研 川口商工会議所 帝国データバンク
---	---	--	--	---

就職に関するOBからのアドバイス

卒業式が終わり、埼玉大学の同期に籍を置いた仲間たちは、それぞれの進路へ巣立っていく季節になりました。

「学生生活は想像以上に短い」とは多くの先輩方から何度も伺った言葉です。いま学生生活を終える身になってみて、この4年間は驚くほど早く過ぎていったと実感しています。学生生活は短い、だから時間を大切にしたい、後輩に送る言葉はそれに尽きるのでしょうか。

私はこの4月から食品メーカーに就職しますが、自分の進路を見つけるまでには迷いを抱えることもありましたが、いま就職活動をしている人、就職活動を始めた人、進学を考えている人、誰にも「自分の本当にしたいこととは何だろう」と悩んだ経験が

あるのではないのでしょうか。私の場合、その答えは多くの人に出会うことで見つかりました。

大学での友人たち・先輩・先生方、アルバイト先の知り合い、経和会の先輩方、就職活動で知り合った友人たち、人と話すことで自分に何が求められているのかが見えてくるのは事実です。「悩んだときは人に会う」というのが、時間を大切にするために自分に課したルールでした。参考にさせていただければ幸いです。

最後になりましたが、あたたかい励ましの言葉をくださった経和会の先輩方、江口先生、そして友人たちには本当に感謝しています。ありがとうございました。

社会環境設計学科
平成17年卒 半田 敦子

経和会各委員会・事務局の紹介

企画委員長 寿永 一郎

経和会には、現在四つの委員会と事務局がありますので、概要をご紹介します。原則として各々の委員会委員長には副会長が、副委員長には常務理事が、事務局の長には専務理事が就任しています。

まとめ等総務全般にわたる事項を担当、その他に事務局を管轄。

平成一六年冬、総務委員会と同時に設置。会誌の編集・発行を主体に、会員交流会の運営も担当。

ホームページ運営は、現在企画委員会から担当引継中。

総務委員会

平成一六年冬設置。会員名簿の管理等会員に関する事項、総会・理事会の運営、予算・決算のとり

企画委員会

平成一六年春設置。経和会の長期戦略の策定、施策推進を担当。

定例業務は原則担当しないが、個別施策は状況により立ち上がりも担当し、軌道に乗り次第当該委員会に引き渡すこととしている。

平成一七年秋設置。経和会の財政基盤強化のため、会費受け入れの促進・管理、寄付の受付等を担当。設置後間もないため、担当事項は総務委員会と調整中。

日常庶務を担当すると共に各委員会の活動をサポート。経済学部内に場所を借りて活動

ゼミナール紹介コーナー

小野 ゼミナール

経済学科

私達のゼミは現三年生三名、留学中の四年生一名の計四名で構成される、超少人数ゼミです。埼玉大学経済学部最大の売りである「少人数ゼミナール」を地で行っています。

私達のゼミでは、一回のゼミの時間（八〇分）に二種類の発表を行っています。一年を通じての経済学関連の発表に加え、前期期間は自然科学的テーマ、後期期間は人文科学的テーマの発表を行っています。経済学の方は半期ごとにゼミのメンバーで相談し、一つのテーマ・テキストに沿って発表を行います。しかし、ゼミのテーマの一つが「聞こえの良いウソ・詭弁に騙されないこと」であるため、テキストが間違っている、あるいはテキスト

水村 ゼミナール

経営学科

ゼミとは何のためにあるのでしょうか？同じ時間に同じ教室に集まり、二コマ（三時間）もの時間を使って勉強をします。三時間をバイトで働けば、三千元くらい稼げるでしょう。大学教授を三時間間も呼ぶとなれば、何万円になるか分かりません。それだけの価値ある場を私たちが水村ゼミのゼミ生は一人でも共有しています。しかし、それだけの対価を十分に得ているとゼミ生全員が感じています。

私たちのゼミでは、三年生の一年間で、他大学との合同討論会を三回、合計で八校を相手に行いました。学年ごとにテーマを設定し、それを基に論文を書きましました。一人の意見をまとめる事は大変難しく、議論が平行線をたどる事もしばしば

松本 ゼミナール

社会環境設計学科

私達松本ゼミでは、主に選挙制度について勉強しています。先頃行われた二〇〇五年夏の衆議院議員選挙や、二〇〇四年冬のアメリカ大統領選挙など、その時々々のトピックに関して、ゼミのメンバー各人が調べ、発表や議論を行なっています。毎年夏にはその様子を調べてきたテーマに関して、各々がまとめたレポートを作成し、発表するという「個人発表会」も開いています。その他にも、新聞社の政治部の記者の方や、テレビ局で選挙報道に携わった方など、第一線で活躍されている方をお招きしてお話を聞く



トの著者の認識が間違っている、という視点で、よりテキストから掘り下げた内容の発表が要求されます。また、「経済学は、複雑なる世の中を構成している様々な事象の一つに過ぎない」という前提を常に認識し、社会科学のみならず、自然科学的思考、人文科学的志向が要求されています。そのため、実際に自然科学や人文科学をテーマとする入門書・参考書からの発表も行っているのです。すなわち、「様々な専門家のコーディネートを行える、広い知識を有する真のホワイトカラー ジェネラリスト」となるべく、日々はげんでいます。（A筆）

同窓会活動の活性化を目指して

第二の課題であった就職支援の具体化では、昨年報告した就職活動中の在学生徒との交流、企業訪問窓口卒業生リスト、就職セミナーへの参画など若手交流会が機縁となった活動が拡がりを見せている。田坂理事の主催される就職セミナー最終回に参加した際に、昨年末の若手交流会参加学生から就職活動の成果報告を聞いたことで、こうした活動が役に立っていることを実感できた。

第三の課題であった、各回卒業生、ゼミ、クラブ同窓活動と経和会活動の関連強化は、まだ目に見える形にはなっていないが、徐々に日頃の努力が実を結んでくるものと期待している。

最後に NPO と関連した埼玉大学の活性化に関しては、現在、私の担当している内閣地域再生本部の業務でも、平成18年度の重点政策として「地域の知の拠点再生プログラム」が策定され、地方大学と地域との連携が今後の大きな流れになっていることを報告したい。（詳細については、官邸・地域再生本部ウェブサイト参照）これは、現在の地方大学改革（国立大学独立法人化、運営交付金改革、科学技術予算改革）の大きな方向を示唆するものとして注目に値しよう。発端は昨年6月に科学技術会議において、薬師寺議員（埼玉大

若手交流会活動状況報告

17年度の若手交流会の活動状況と地方大学の活性化

中村広報委員長の指導の下、若手交流会の活動が始まって一年半ほどが経過した。今年度は、定例化した経和会総会後の懇談会（五十六会）、年末に押し詰まった12月20日に若手交流会忘年会が開催された。また、この間11月29日には、新たに昨年の「若手交流会の提言」実現の第一号とでも言うべき女性理事藤田裕美さん（平成3年卒）の発案による「NPO と関連した埼玉大学活性化策」検討のための勉強会も学生会館において開催された。

現在の若手交流会の中心メンバーは40代後半から50代前半という最も職場における業務負担の大きな中年族となっている。流石に、頻りに会合を持つことは不可能であったが、昨年度の若手交流会で提案された諸課題に、歩みは遅くともそれなりの前進を図ることができたのではなかろうか。

第一の課題であった女性理事の任用については、上記のように、平成3年の経和会理事に初の女性理事として藤田さんが任命された。彼女からは、既に上記のような勉強会の提案があり、実現されている。この関係では、後に述べるような埼玉大学の地域貢献と大学改革の話題が盛り上がりを見せてきている。

現代雑感

経済学部教授 奥山 忠信

桜が咲いてはまだ寒く、春が来たような気がしない。記録的に寒い冬だった。『日本経済新聞』は、連日のように日本経済の記録的な好調を伝えている。しかし、庶民の懐は寒く、薄日すら差してこない。他人事のような景気回復である。われわれには「未来」を語る以前に、「今」が見えて来ないのである。経済学の父アダム・スミス（1723-1790）は、封建社会が終わり時代は商業社会になったと指摘している。われわれはこの認識にほとんど感銘を受けられない。今から見ればその通りだからである。しかし、彼の時代に戻ってみれば、スミスは彼の「今」を正しく認識していたのである。これはたぶんものすごい洞察なのである。まして、賃金労働者のほとんどいない時代に、社会を労働者・資本家・地主の3段階に分けて分析するなどほとんど奇跡に近いことである。スミスは、彼の「現代」を知り、そして「未来」を分析していたのである。誰も気づいていないだけで、われわれの「現代」にもアダム・スミスがいるのかも知れない。しかし、独立行政法人化の荒波で、大学の研究は窒息寸前である。大学の中にはもうアダム・スミスはいないような気がする。埼玉大学に赴任して21年。経済学部棟4階の研究室から見える眼下の満開の桜は、今年はずいぶん寒々と咲いている。

経済学部の国際化に期待する

昭和47年卒 菊池 勝
株式会社伊勢丹データセンター社長

昨年（二月三日）に埼玉大学経済学部主催で「ワークショップ2005 サイトマ」が開催され、留学生を受け入れるなど親密な提携関係にあるタイのチュロンコン国立大学とシンガポール国立大学からのゲストをお招きして国際会議とパーティーが催されたと聞きました。

又、経和会からも五名が参加、和やかな雰囲気の中でのパーティー、本当にグローバルになったと感じました。

私は荒んだ七〇年安保直後の昭和七年に卒業して、同期では一人と記憶してましたが埼玉大学からは珍しい流通関係の伊勢丹に就職し、呉服売場からスタートし外資系や経理部を経験して、何故か今はよく分かりませんが情報システム関係の担当を経て現在は伊勢丹データセンターという子会社の経営に携わっています。

今回の「ワークショップ2005 サイトマ」にはぜひ参加できたらと思うはあったのですが、かなわず残念でなりません。と言いますのも伊勢丹はシンガポール、マレーシア、タイと中国に店舗を出し、私は店舗システムの構築を担当したり、現地の上記二大学の卒業した同僚と店舗の立上げや運用に共に頑張った経験から、より親しみも一段と高かったからです。今現在、伊勢丹の埼玉大学卒業生は約二〇名おり、海外勤務者は年々増えています。

企業に就職した皆さんの中にも海外との仕事に係わっている人も非常に多いと思いますが、今後は東南アジアや中国と、経済圏としての付き合いが活動が益々多くなってくるのが必然とされる今日にあって、今回のような催しが盛んに行われることを期待してやみません。

わが青春の蒼玄寮

昭和39年卒 高岡 勲

手痛い歓迎

その建物はなんとともすばらしく薄汚かった。

入寮手続きを終え、案内された部屋に入ろうとしたとたん、私の体は硬直してしまった。その日は、日曜日だったのか畳敷きの大きな部屋には二人の先輩がいて暮を打っていた。「こんにちわ」と、二度声をかけた二人は振り向いてくれぬ。

暮に熱中すると親の死に目にも会えないと言っらしいが、まさにその通りの状況で、私は部屋に入るにれず不安な気持ちでそこに佇むだけだった。

永い時間が過ぎたような気がしたその時、突然押入れの引き戸が開き三人目の先輩が手招きして部屋に入れてくれたのだ。

この三人はいずれも経済の先輩たちで、その後は親切によく面倒を見てくれた。

ここが三年半の間私の楽しい生活の場になるとは、その時は思いもしなかった。

桃源の日々

私の印象ではその住人たちは文理学部とりわけ経済の学生が大勢を占めていたように思う。

そして寮周辺の商店や住民の方々は、我々に対して万事寛大だった。



蒼玄寮 昭和37年

(あの頃はまだ旧浦高時代の余韻が残っていたのだらう)

一時期寮委員会の委員を担当していたので、逸話を少し紹介しよう。ある日西口銀座の商店の方が来て「昨夜お宅の寮生が店の看板を持って行ってしまった。探させてください」とのこと。

困ったな、しかられるな、と覚悟していたところ、しばらくして「ありました。ありました。戴いて帰ります」と、何度も礼を言っていてリヤカーに乗せた大きな看板を持ち帰ったリヤカーを持ち込んできたところを見ると、初めから寮生の仕業と目星をつけていたのだらう。

またある時、それは試験の前だったが、ある部屋に近所の表札がごろごろしていた。試験(四軒)を倒すとの縁起で夜陰に乗じて失敬してきたらしい。

ご利益を得て見事試験を乗り切ったかどうかは不明。

これらの例はいずれも一杯引つ掛けてご機嫌になったの所業だが、何のお咎めもなかったのは幸いであつた。今の世なら果たして無事に済むだらうか。まことに良き時代に生まれ育つたものだと思つづく。

酒のついでに

我々は皆貧乏だった。

しかし微塵も暗さはなく、夫々が学業やバイトにいそしみ明るく楽しくやっていた。お金がなくて一週間や十日は、まあ何とか生活できたものだ。なぜならその間は少し余裕のある者が融通してくれたからだ。こうしてお互いに助け合ってきたものだった。

みんなの溜まり場は西口では「姑娘」「三島家」(今でも息子さんが取り仕切っていて健在)、東口では「かすみ」おでんの「一平」などなど。

「三島家」の親父さんは西郷隆盛を思わせる風貌をし、いつもニコニコと大変優しい人だった。また「一平」は旧中仙道に面した不法建築め

いたボロ屋であった。冬は隙間風が容赦なく吹き込み熱々の酒とおでんを口に運ばなければとても我慢できなかった。でも店を切り盛りする品のいいおばあさんは厳しいがとても人が良かった。

ちよつとお金がある時は、栄通りのパーに行き一杯五〇円のトリスマニツカのストリートかハイボールを飲んでみた。いずれもパーでは最も安い飲み物ではあつたが。

当時は東口へ出るには、踏切(今は踏切がなく地下道になった)を渡るのが正規ルートだった。たいした距離ではないが我々は改札のおじさんに「東口まで」とか何とか言つて、無賃で駅舎を通過するのが常だった。駅員も仕方ない、と思つてかどうか文句を言うことなど決してなかつた。これも良き時代か。

私のアルバイト

入学直後から六〇年安保の嵐が吹きまわった。連日の集会と国会へのデモに加え、自治会内のセクト抗争で学内は荒れに荒れてしまった。

安保闘争が終息し、しばらくたつてからだが経済の先輩が「舞踏部のマネージャーをやれ」とのこと。ダンスのダの字も知らなかつたが、先輩の声に逆らえるわけもなく仕方なく引き受けてしまった。部とはいえず踊れる選手は経済の先輩であるKさんぐらいたつた。従つて活動はダンスパーティーの主催ぐらひであつた。

先輩の次の声は、「選手になれ」だった。有無を言わせぬ押し付けでこれもやむなく承知。仕方がないので北浦和ダンス学院でレッスンを受けることになった。才能があるわけではなかつたが、なんとか踊れるようになったところ、今度は教師が全埼玉の新人戦に出るといふ。競技ダンスに興味を感じ始めていたことも手伝い恐る恐る出場したら、なんとびつくり優勝してしまつた。それから東都大学の競技会にKさんと参加し、二人とも上位に入賞するようになった。これがきっかけで、北浦和で教えるようになった(アマだからもちろぬもぐりで)。生徒はみな若くかわいい娘ばかりだったせいで、このバイトは大変楽しかつた。こうして

会員の声

独法化に伴い、埼大も少子化、建物・設備の老朽化の中、他大学との間で受験生・入学生の確保に凌ぎを削ることを強いられる。他大学と差別化できる埼大の「売り」は何か。大きな関心事である。

我々団塊の世代は、多人数故の競争と時代の変化の中で懸命に忙しく生きてきたが、あと一年で時間の余裕ができる。この団塊のエネルギーをどう活用するか。経和会にも我々にも大きな課題と思う。

昭和36年卒 五十嵐清人

はじめまして、現在は東京電力に勤務しています。住まいも浦和ですので、浦和レッズをそして楽しかつた母校を愛しています。経和会が発展し、様々な分野の方と繋がりができればと思っています。

昭和46年卒 寿永 一郎

席者は一九名か二〇名ですが、四年間で三〇余名の仲間がクラス会に出席しております。

卒業以来初めて会う方もあり、四〇年の歳月は、頭に霜を戴く者、少々額が広くなつてしまつた者と風貌を大分変わらせていますが、話し始めると自然と歳月の経過を忘れてしまいます。昔話や近況報告で座談の輪が広がり、昔に帰つて話しがはずんでいます。また、出席できない同級生が近況を報告して来た場合はそれを会場で披露しています。

自営で仕事をしている方、役員として企業に留まっている方がいるなかで多くの者は、定年後を様々な形で過ごされています。大学院に入学し勉強を続けている方、農業大学の園芸講座に通っている方、地方に別荘を建て農作業に精を出している方、ブナ林の環境保全のボランティアをしている方等第二の人生も様々です。

これからも、毎年集まって、学生時代に戻り、楽しい交流を維持していきたいと思つています。

同級会交流録

昭和40年卒同級会幹事 青木 茂

我々四名は昭和四〇年に文理学部経済科を卒業し、社会人となりました。それから既に四一年が経ち、同級生は既に還暦を迎え、大部分の者はそれまでの仕事の第一線から退き、新しい環境の下で、永年培ってきた経験に基づきそれぞれの生活を営んでいます。同じ企業に就職した者は例外としても、卒業以降の付き合いは、直後数年に数人のグループで、海水浴やスキーに出掛けた程度で、家庭を持ち、海外や国内遠隔地へ赴任する等により、同級生の交流は自ずと疎遠になっておりました。

さて、平成一四年以降我々は毎年クラス会を開催しています。それまで少人数でクラス会をもつたことはありましたが、六〇歳定年還暦を迎えたのを機に、「集まろうじやないか」という声が自ずと聞えるようになりました。既に五名が鬼籍に入つてしまひ(謹んでご冥福をお祈り申し上げます)、住所等が全く掴めない者もいましたが、残りの者に呼びかけた結果、平成一四年に新宿伊勢丹会館で二〇名でクラス会をもちました。それ以来、毎年の出

埼玉大写真館

今回は新旧校舎の写真を掲載しました



新 大久保 経済学部校舎 平成16年 旧 北浦和 文理学部20番台校舎 昭和37年

古い懐かしい写真をお持ちの方は事務局までご連絡下さい

編集後記

今回は、次の二つのことを念頭に入れ、会報誌を発行しました。

- (1) 経和会が学生の就職支援並びに経済学部支援を行うこと。
- (2) 現役の教官・学生・卒業生等若い方から先輩の方にもご寄稿いただき、経和会は一部の古い卒業生だけのものという観念を打破し、若い方を含め多くの会員が強い関心を持って、経和会の発展に寄与すること。

最後に、終身会費(二万円)についてお願いします。残念ながら未納の会員が多くいます。会費未納の方は、よろしくご協力の程お願いします。

なお、納入は任意であり、強制するものではありません。念のため。